

信州大学附属病院に市立図書館の機能を持った患者図書室ができます。

信州大学附属図書館  
折井匡

## 1. はじめに

現在建設中の信州大学部附属病院（以下信大病院）新外来診療棟（平成21年5月稼動）の中に患者図書室ができることになり、病院の医療福祉支援センターが悪戦苦闘しながらも、理想に向けて患者図書室を立ち上げるべく、現在も努力しています。私は医学部図書館から現在は離れていますが、昨年までいろいろ相談を受けたりした関係で、設立の経緯を知っていますので、患者図書室が松本市立図書館（以下市立図書館）とコラボレーションした経緯について、お話をさせていただきます。

## 2. 始動

信州大学は、地域貢献ということを大学の目標としており、地域のCATVに専用チャンネルを持っていたり、出前講習会などを行ったりと、様々な事業を行っています。その結果地域貢献大学として全国ランキング2位となっています。

信大病院も地域中核病院として、いろいろな指定病院になっていて、がん拠点病院としても指定されています。現在信大病院には図書コーナーがあり、自由に本を読めます。また病棟のデイルームには図書が置いてある棚もありますが、いずれも無人で、ほとんどが寄贈図書であり、体系的に収集していません。

「医療福祉支援センター」は医療相談・看護相談・薬の相談・がん相談など様々な相談業務を行っており、また情報提供も重要な業務となっています。その関係から、病院長より2006年に2009年5月に新築となる外来診療棟に患者図書室を造るよう指示が医療福祉支援センターにありました。

## 3. 経過

まず医学部図書館に相談がありました。当時館長補佐として私がいました。私は患者図書室について大変興味があり、自分なりに文献を読んだり、県内外の患者図書室に行ったりしていましたので、担当者といろいろお話をしました。医学部図書館と患者図書室は似て非なるものであることや、他大学の患者図書室の実例などをお話して、まだ時間もあることから、じっくりいろいろな病院患者図書室を見ていくことにしました。また患者図書室には、入院患者様向けの読み物の図書と、病気や医療についての図書を集めた図書室とすることを決めました。

見学した国立大学病院にある患者図書室のいくつかは、ボランティアを中心に動いていることが分かりました。そこで信大病院でもボランティアの可能性

を知る為、病院のボランティア担当者に打診しました。すると、病院ボランティアとして、外来受付や子供たちへの読み聞かせをしてもらっている、現職の松本市立図書館の職員（現在は分館長）を紹介されました。その方といろいろ話している中で、松本市には団体貸出図書制度があるということが分かりました。そこで松本市立図書館に読物の図書を団体貸出図書で充当したい、とお願いしたところOKをいただきました。

ところで、病気や医療関係の図書は病院で用意しなくてはなりません。医学部および附属病院の図書は、医学部図書館が購入しています。医学部図書館独自のIDラベルがあり、信州大学附属図書館のシステムに登録し、OPACなどで検索ができます。

つまり、市のシステムで作られたIDラベルと、信州大学で作ったIDラベルの図書が同じ図書室で共存しなくてはなりません。またそれぞれ別のOPACで検索することになります。

医学部図書館に解決策を求められました。私も市立図書館から図書を借りますが、IDラベルは信州大学と同じ10桁のNW-7規格で作られています。そうであるなら、市の図書データをダウンロードして貸出などに使えるようにしたらどうか、などを考えているうちに、信州大学のシステムではなく松本市立図書館のシステムで運用したらどうだろうか、という話になりました。また、ボランティアのみで職員のない図書室には問題があることや、公立図書館で抱える問題の一つに、医療関係のレファレンスが行いにくいとの情報もあり、信大病院に松本市の分館を設置するというのはどうか、ということになりました。松本市立図書館のシステムは、松本市の中央図書館のほか8分館で利用されているだけでなく、隣接の波田町立図書館の図書も管理しています。それならば信大病院の図書もできるのではないかと思いました。

病院長から松本市長へ松本市図書館の分館の信大病院設置についての陳情をしてもらい、市長は直ぐ関連部門に設置の方向で進めるよう話がありました。

実は菅谷昭（すげのやあきら）松本市長はかつて信州大学医学部の医師でした。外科の助教授の時に辞職され、ロシアのチェルノブイリ原発事故の後遺症で苦しむベラルーシで治療を行われていた事は、NHKのプロジェクトXで取り上げられました。帰国後は県の職員を経て、松本市長として現在2期目です。本来は陳情したら直ぐにOKになるはずも無いのですが、この市長だったからこそ病院長とのトップ会談で決まったと思います。

その後は、市立図書館と綿密な打ち合わせをして、分館化については無くなったものの、分館並みの図書室を設置することとし、市立図書館のシステムに信大病院で購入した図書のデータをバッチで入力しています。また運用面でも協議した結果、次項のような図書室になることが決まりました。

#### 4. どんな図書室か？

コンセプト：信大病院が運営する市立図書館の分館並みの機能を持った病院患者図書室

- ・市は信大病院へ委託事業として依頼する
- ・入院患者様用図書（読み物・小説など）は市立図書館から借用（長期貸出）する
- ・職員（司書）が常時いる
- ・市立図書館用パソコンを導入し、貸出・返却及びリクエストなどに対応する
- ・Webで予約した図書の受取図書館として指定も可能
- ・週に2回、市立図書館巡回便が来る
- ・定期的に団体貸出図書の循環を行う
- ・市民の利用ができる。市民は病院購入の図書も貸出が受けられる。  
（来室者のみ）
- ・返却は、市内のどこの図書館でも可能。

開室したら

蔵書予定 信大病院が1000冊 市立図書館が3000冊（団体貸出）

利用者 病院の患者様・家族 一般市民（病院職員を含む）

貸出について 松本市のシステムで利用者証を作成する。

松本市の規程で貸出が認められている人は、他図書館と同じく利用可能  
松本市の規程外だが、大学病院の患者様（入院・外来）は半年間利用できる利用者証が発行される

情報検索について 信州大学医学部のシステムで提供。

（医学中央雑誌・J Dream I I・メディカルオンライン等利用できる）

開館時間 9時～16時 信大病院が開院している日のみ

館内の設備 閲覧机 書架 貸出・返却用パソコン・情報検索用パソコン

職員（司書）2名 4時間 9時から13時 12時半から14時半

4時間交代（1時間900円）

- ・雇用予定の2名とも司書資格あり。
- ・雇用予定職員は4月に市立図書館でシステム研修を受講

レファレンスの対応

- ・患者図書室職員で対応できる場合は行う
- ・専門書が見たい場合、医学部図書館を紹介する
- ・専門知識の必要な場合は、医療福祉支援センター職員が対応する
- ・専門的かつ個人的な相談は、医療福祉支援センターの業務として対応することも可能

工事中の中を患者図書室となる場所を見てきましたが、外来の受付のすぐ隣で、病棟へ行く廊下から目に付く場所です。多くの方に利用してもらえそうです。

#### 5. なぜ市とのコラボレーションが可能であったのか

これまでの一連の流れを見直しますと、信州大学の基本方針のもと、人と人がうまく連携してきて、最終的に素晴らしい患者図書室が計画されました。私の理想とは若干違う点もありますが、現状ではベストな状態だと思います。問題はこれからで、部屋や体制が整っても、心のこもった患者図書室を運営しなければなりません。そのためなら、私も微力ながらお手伝いしたいと思っています。

私にとっても市の図書館の分館としての利用ができますので、大変待ち遠しいです。ひょっとしたら一番便利になるのは、信州大学の学生と教職員なのかも？。(^^ ;

#### 6. おわりに

信大病院の場合は特殊なのかも知れません。外来診療棟の建替えなどはめったにありませんし、市長が病院OBという事はまずあり得ません。

しかし、本当に病院図書室を考える中で、公共図書館とのコラボレーションはぜひとも必要ではないでしょうか。市と大学という違う組織であっても、信州大学ではコラボレーションすることができました。県立病院と県立図書館、市立病院と市立図書館などは、人事交流で患者図書室や病院図書室に異動する事はできると思います。

本来なら病院に患者図書室ができてから発表すべきでしょうが、今から広く関係者に知っていただく事で、他の病院でもコラボレーションで病院患者図書室ができたらと思い、今回の講演を引き受けしました。